

藤原景清と
坂手因幡守④

前回は坂手因幡守にまつわる町内の伝説をお話ししました。

藤原景清については、町内にはこれまで紹介した古川の伝説以外には残されていません。ただ、美作地域全体をみると、元禄四年（一六九一）成立の『作陽誌』の中に、現在の久米南町京尾に影清山という山があり、そこに景清の墓があると書かれています。しかし、ここの景清は、『平

家物語』などに出てくる悪七兵衛とよばれる平家の武将、藤原景清の墓であるとされています。

そして十九世紀初頭頃に津山藩士の正木輝雄が書いた『東作誌』には、現在の西栗倉村影石に、悪七兵衛景清が産まれたという「景清屋敷」をはじめ、数々の景清にちなんだ史跡があるとされ、景清神社も祀られています。また、同書には江戸時代に現在の津山市下横野で庄屋を務めた前原氏の系図の中に、文正元年（一四六六）頃に「影清」という人物がいたと紹介しています。このことについて、正木輝雄は「宝性寺を造立した筑後守景清も西栗倉の景清もこの前原影清のことであろうか。悪七

兵衛景清が美作国に縁があるというのは古い記録にも伝説にもない」と考えています。

そして、『作陽誌』と『東作誌』を手直して大正二年（一九一三）に『新訂作陽誌』を編集した郷土史家の矢吹金一郎も同様に、同書の中で西栗倉の景清伝説について、「悪七兵衛景清が美作国で生まれたという話は聞いたことがない。古川村の宝性寺の伝説では、因幡国の筑後守景清という人物が古川村を領していたというが、西栗倉の景清はこの人物のことであろうか。また、前原家の系図にも影清という人物がおり、美作国には景清を名乗る人物が二人いる。いずれが正しいのかはわからないが、西栗倉影石

など古典芸能の中で勇猛と悲劇を併せ持つ人物としてたびたび登場する、非常に人気のある人物です。しかし、その死については不明であることから、景清の墓やゆかりの地が、全国に知られているだけでも約三〇ヶ所存在します。

古川の景清も、恩賞としてこの地を与えられる一方で、敵に殺害され母も自害するという、栄光と悲劇の両面を持っています。この景清が、前回お話しした坂手因幡守と似た経歴をもつのは、この地で活躍した坂手因幡守を、古典芸能で人気の高い悪七兵衛景清になぞらえて後世に伝えたいという考え方もできるかもしれませんし、因幡国出身の景清という人物が実在し、「因幡」という共通のキーワードを持つ坂手因幡守と混同して伝えられたのかもしれませんが、いずれにしても、藤原景清と坂手因幡守という二人の人物が、偶然とは思えない共通性を持ってこの地に伝えられているということは、伝承と史実が地域の中でどのように解釈され、後世に伝えられたのかを考える上でも非常に興味深いことです。

参考資料…『新訂作陽誌』
協力…景清山宝性寺



影清山（久米南町京尾）



景清神社（西栗倉村影石）



景清(中)・景清の母(右)・景明(左)の墓（宝性寺）

ないが、西栗倉影石は、因幡国に近いので、筑後守景清がこの村に居住し、その古跡が多くあるのであろうか。それが同じ名前を持つ有名な悪七兵衛景清と混同されたのであろうか。」と推測しています。悪七兵衛景清は、『平家物語』の中でも勇猛の士とされ、後に能や浄瑠璃、歌舞伎

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733